



広報 なかわだ

第 400号

5月の予定	
教会委員会	12日(日)
信徒の会例会	19日(日)
子どもと共に捧げるミサ	26日(日)



The Dove of The Holy Spirits (St. Peter's Basilica, Vatican)

2013年 5月号

中和田カトリック教会
広報委員会発行

泉区中田北 1 丁目 9-1
Tel. (045) 803-6141

<http://www.paw.hi-ho.ne.jp/nakawadacatholic/>

2013年5月5日

聖 霊 に つ い て

～「聖霊降臨の日」(5月19日)を前にして～

主任司祭 小林 陽一

イエス様は30歳のとき宣教を開始しました。ご自分の故郷の町ナザレに行き、会堂の中で「主の霊が私の上におられる。主は私に油をお注ぎになったからである」(ルカ4章16節)と言われて、イエス様ご自身の上に聖霊が働いていることを表明なさいました。また、「天地の主である父、私はあなたを誉めたたえます。あなたはこれらのことを知恵ある人には覆い隠し、小さい者に現してくださいました」(ルカ10章21節)と御父への賛美の祈りを、聖霊による喜びにあふれて捧げました。イエス様は、御父と御子の交わりを深め、大切にしておられました。

3年間の宣教生活の終わりの頃、イエス様は、弟子達に「真理の霊(聖霊)である方が来られると、真理のあらゆる面であなた方を導いて下さる」(ヨハネ16章13節)と言われ、聖霊を派遣する約束を致しました。ユダヤ人達から生命をねらわれていたイエス様は、捕らえられ、十字架にかけられて、33歳のご生涯を終えました。弟子達はイエス様のご遺体を墓に葬り、将来への希望を失いかけた時、よみがえったイエス様がお姿を現し、弟子達は元気を取り戻して、以前のように集まって祈り始めました。五旬祭の日がきて、弟子達が一つ所に集まって祈っていると、突然はげしい風が吹いてくるような音が天から聞こえて、弟子達が座っていた家中に響き渡りました。すると、「炎のような舌が現れ、分かれて各々の上に留まった」(使徒行録2章3節)。

これが聖霊降臨の始まりでした。キリストの弟子達はみんな聖霊に満たされ、聖霊が語らせるままに、様々な他国の言葉で語り始めました。

聖霊を受けたペトロや他の弟子達は、今までとは打って変わって、キリストの教えを述べ始め、人々に悔い改めること、そして洗礼を受けることを説き、教会が誕生することとなりました。聖霊降臨のち教会が成立し、弟子達は各地に派遣されて、新しい信仰者を育てていきました。聖霊はしばしば神の霊、キリストの霊と呼ばれ、信者を神とキリストに一致させてくれるものとなりました。

21世紀の現代においても、教会の中で聖霊が働き、聖霊による罪のゆるしが与えられていることは初代教会と変わりません。

聖霊について学ぼうとすればするほど、理解し尽くせない神秘的な部分がたくさんあるようです。私達は、聖霊である神に導きを願って、神が望まれる正しい方向に目が向けられますよう願うことがよいのではないのでしょうか。

聖霊についての読みにくい文章をお読みいただき感謝申し上げます。



日	曜	典 礼	ミ サ	備 考
3	金	聖フィリポ聖ヤコブ使徒	祝日ミサ(10時)	掃除
4	土		主日ミサ(18時)	
5	日	復活節第六主日	主日ミサ(9時)	
11	土		主日ミサ(18時)	掃除
12	日	主の昇天(祭日)	主日ミサ(9時)	
14	火	聖マチヤ使徒(祝日)	祝日ミサ(10時)	
18	土			掃除
19	日	聖霊降臨の主日(祭日)	主日ミサ(9時)	
25	土			掃除
26	日	三位一体の主日(祭日)	子どもとともに捧げるミサ(9時)	聖堂清掃(A,B地区)
31	金	聖母のご訪問(祝日)	祝日ミサ(10時)	

典 礼 こ よ み (五 月)

委員会だより

(文中敬称略)

△4月14日(日) 13名出席▽

■神父様の話

- ・2013年3月27日聖水曜日の聖香油ミサで、教区事務局より2012年度教会現勢報告が配布された。中和田の資料作成・提出頂いた総務グループに感謝
- ・3月12日に消防用設備点検終了。次回(9月)の点検では、点検費に加えて消火器粉末の詰替が必要、出費が多くなるので配慮願いたい。
- ・末吉町教会出身のパウロ田邊敏彦助祭の司祭叙階式が、5月6日に山手司教座聖堂で執り行われる。

- ・6月2日の「キリストの聖体」祭日ミサにて、初聖体拝領が行なわれる(2名)。要理学校、宣教の皆さんには、雰囲気づくりをお願いする。

■月修資料(上野) (詳細省略)

■各グループからの報告

- 典礼(大宮(智))
 - ・典礼予定表の確認
- ・前掲の初聖体(6月2日)は、「子どもと共に捧げるミサ」にした方が良いが、「聖体顕示式」が行なわれる可能性があるので、決まるまで保留
- ・聖週間の反省:
 - 年々協力が薄れて来ている、
 - 聖週間のミサや祭儀の意味、意義が理解されていない、流れも出ていない
 - 司祭・先唱・侍者は打合せが必要
 - オルガン奏者不足、聖歌隊復活必要(?)
- 財務(甲斐)
 - ・3月度特記事項は、「祭儀消耗品費」の支出(聖体顕示台、洗濯機)のみ。
- 宣教(井上、石井(洋))
 - ・第5地区運動会 5月19日於湘南

白百合小学校

サマーキャンプ 8月23日～25日

第5地区リーダ会の活動費が枯渇しているので、援助願いたい(井上)

↓援助OK(委員長、財務委員)

先月委員会で、サマーキャンプの補助金を出して頂ける話があったが?(井上) ↓人数にも依る(委員長)

他教会と交流することは意味があるので、中和田の夏期合宿をやめてでも教区のサマーキャンプに参加するのも一案である(井上)

湘南キリスト教セミナーは5月25日に片瀬教会で開催。講演者はシスター山本。

本年度最初の中高生会を4月13日に行なった。中高生主体のミサを本年度中にやることを目標にする。

●要理(大宮(ひ))

4月21日ミサの「お知らせ」で、要理学校の子ども全員と、6月2日に初聖体を受ける2名の紹介をする。6月2日の初聖体ミサを、子どもミサの形式に出来るかは出席者の都合もある、4月21日に要理学校のお母さんたちに諮って決める。サマーキャンプ参加の件は、日程が新学期直前でもあり、これもお母さんたちに諮って決める。

5月19日のミサで、子どもたちは第5地区運動会参加のために、ご奉仕が出来ない。配慮願いたい。

●営繕・建物(福島)

事務所蛍光灯交換、聖堂大掃除、消防設備点検、などの実施項目を報告(全部支払済)

●福祉(中島)

先月委員会で、財務より指摘のあった事項を反映した、バザー分配金

収支の決算(2012)と計画(2013)

の報告改訂版を配布

・四旬節特別献金は、信徒のご協力ですべて円集まった。教会会計の「愛の献金」と併せて活用すべく、財務グループに渡した

・今後、「福祉・介護施設に入られた信徒」への対応が大きな課題になってくる。

●行事(永島、森田)

・ミサ後の「お知らせ」でお願いしたとおり、バザーの奉仕日を「第1、3火曜日」の10時～15時とするので、協力をお願いする。

●総務(岩淵)

・5月分スケジュール表の確認

●広報(小野)

・来月号は創刊以来400号となる。いろいろ寄稿をお願いしているが、協力願いたい。

●信徒の会(岩淵)

・ミサ後の「お知らせ」でご案内したとおり、4月の例会で「パソコン教室」を開催する。どんな質問・疑問にも対応するので、奮ってご参加願いたい。

■討議報告事項(上野)

・シスター片岡の講演会
・6月29日(土) 13:30～15:30(内、30分は質疑応答終了後懇談会を予定)

●前掲の田邊助祭の司祭叙階式

・出席者を別途募る

●災害対策について

・備蓄品の購入を検討する段階なので、品目の検討に入りたい(数量は当面50人分。協力をお願いする。

・経緯・状況を、全信徒に周知する必要あり。内容を5月号に掲載する。

次回委員会 5月12日(日)

信徒の会報告(4月21日)

今回は皆様からのご要望の多かったパソコン講座(第一回)を実施しました。コンピュータは戦後まもなく米国で発明されましたが、その後急速に発展して社会、生活に欠かせぬものに成長してきました。パーソナルエリアへの適用も進み、今や多くの家庭でパソコンが利用されています。このような状況もふまえ、コンピュータとはそもそもいかなるもので、社会生活にどのような意味を持っているのか、その特徴や動作原理等をお話しした後、パソコンを使っていく上で必要となるハードウェア、ソフトウェアの基礎知識を中心に紹介させて頂きました。少し堅いお話でしたが、御参加の皆様には熱心にお聞き頂き、質疑もはずみませんでした。時間不足で今回は実習の時間が取れませんでした。次回第二回目(5月19日)はWORDやEXCEL等を中心に実際に使用して頂いて重要なポイントをご理解頂きたいと思っております。是非御参加下さいますようお願い致します。

なお、今後信徒の会ではパソコンに限らず皆様のお得意のエリアについてお話しをして頂く機会を作っていきたいと思っております。御協力のほどお願い申し上げます。(岩淵英介)

教会からのお知らせ

●転入

マリア・ベルナデッタ 関 真紀子さん
マリア・アンジェラ 美加 さん
4月13日付で、藤沢教会から転入されました。 藤沢市高倉町にお住いで、D地区に入ります。(総務グループ)

「広報なかわだ」４００号 おめでとうございます

「広報なかわだ」が４００号を迎えられ、おめでとうございます。「広報なかわだ」は、中和田教会の皆様が必ず読んでくださり、その都度いろいろな感想を返してくださいます。こうしたことを通して、皆様の祈りが紙面に届けられていると思います。

また、「広報なかわだ」を作成する側の方々は、企画、連絡、原稿依頼、原稿集め、編集などのお仕事を、一つ一つ完成させて、印刷、そして発行に至ります。

そうした皆様のたいへんな努力が、４００回にわたって積み重ねられ、４００号の発行となりました。「広報なかわだ」を毎回作成して下さった皆様、無言で支えて下さった皆様に、心から感謝申し上げます。４００号、ほんとうにおめでとうございます。

(主任司祭 小林 陽一)

※「広報なかわだ」の企画・編集・印刷を担当された、歴代の広報委員の皆さまに、思い出を綴っていただきました....

ふりかえってみて

七浦 鑑吉

広報係りより“５月に「広報なかわだ」が４００号の節目を迎えるので、以前広報を担当した者に思い出の記事でも”という依頼があり、正直公務から手を引いており躊躇しましたが、出来るなら協力をお願い引き受けました。

私が「中和田だより」を担当したのはすでに３７年前のこと、記憶としては遠い昔のことになり忘れていることが殆どで、もし前の記事があればと思い調べてみたら１号から残っており(途中欠番もあり)幸い自分の担当した資料が残っていたので何とか、ふりかえってみることが出来るかと思い、お引き受けしますと返事をした次第です。

「中和田だより」の第１号は昭和５１年（１９７６年）からです。担当は佐藤和子さんという方が始められ、最初はガリ版刷りの手書きで書かれた用紙の大きさはＢ４サイズ。記事は表だけに書かれ、二つ折りにして裏面は白紙でした。佐藤さんの文字は美しい字で書かれており、まるで手紙でも見るような心温まる「中和田だより」でした。

この広報という仕事がどうして私にまわってきたのか分かりませんが考えてみると、その頃ガリ版刷りを少し趣味としてやっていて、そんなところから誘いに乗った感じで担当を引き受けたのかと思います。それにしても教会に関する知識も詳しくない私にあの厳しい宮下神父様がどうして任せられたのか今でも不思議に思えてなりません。

第２１号から６１号までよく努めたものだといながら感心します。まだその頃はワープロやパソコンもなく手で書くことしかなかった時代でした。知識不足から恥をかくことも多く苦戦の連続でしたが、今のように各教会との交流も活発ではなく機関紙の交換がなかっただけでも思い出してみてもホッとしています。ふりかえってみて若さの恐いもの知らずだったからやってこられたのでしょう。昔のことが懐かしく思い出されます。

謄写版刷りの広報紙

石井 三雄



私が中和田教会の機関紙「広報 なかわだ」の編集に関わったのは七浦さんの後任として引継いだ時に始まります。当時はガリ版で原稿を作り、それを謄写版で刷り上げて、それを教会に来られる皆様に配布していました。その時謄写版のインキで必ず手が黒く汚れた記憶が残っています。

時代は変わり、今ではパソコンで原稿の作成から編集を行い、プリンターで仕上げてしまう、それも写真やカットを多用し鮮明なカラー印刷で仕上がっていて、仕上がりや内容と効率も当時の機関紙とは雲泥の差です。最近経費削減の影響で紙面がカラーからモノクロになってしまったのが、少し残念な気がしますそれでもカラー/モノクロでの「広報 なかわだ」はカットやレイアウトなど他の教会機関紙などと比較しても大変存在感のある機関紙だと思っています。この礎は前任者の岩渕さんが確立され現在に至っています。

当時の編集作業で印象に残っていることは、原稿を作成するときに文章や漢字の正誤を確認するのに国語の辞書は必要不可欠でした。今ではパソコンで文書を作成する時の文字変換やレイアウトなど編集作業は大変便利になりましたが、紙の辞書を利用していた当時、最初が「愛」で始まり終わりは「腕力」で、その中間が「せ」の項目となり、「世界」とかの見出し(項目)だったように記憶しています。

またこれに関連して「この世の中は世界を真ん中にして愛と腕力でバランスが取れている」という事を名前は失念しましたが著名な国語学者が語っていたことも印象に残っています。それと辞書を繰っているとアナログとデジタルの特性が良くわかります。

アナログの特性として、編集作業中に紙の辞書では項目を探すうちに、寄り道をしてほかの項目に興味を持ちそれに時間を費やしてしまうということが多々ありました。

これを執筆していると、当時のことがまるで走馬灯のように懐かしい思い出となって甦ってきます。

広報委員の思い出

岩渕 英介

お励まし頂き、支えて頂き、御礼申し上げます。

当初前任の石井さんのお手伝いをしていましたが、当時の広報は皆様から原稿を紙ベースで頂き、糊で貼り付けて作成していました。Ａ３一枚にぴったり収めるのが大変だったことを記憶しております。

石井さんを引き継いだ時、それまでの切り貼り型では編集が大変なので、全体をパソコンで編集することにしました。また紙面にゆとりを持たせられるようＡ３の裏表に両面コピーすることとしました。石井さんは御自身で描かれたきれいな手描きのカットを使っていたらいいなと思っていました。私は絵の才能がなくどうしようか悩みましたが、たまたま米国出張の折キリスト教関連のパソコン用イラスト集が手に入り、これを使うこととしました。こうしてオールパソコン編集による広報がスタート致しました。

その後パソコンの進歩と共に広報も少しずつ変化していきました。はじめの頃はＡ４サイズのプリンターで打ち出したものを二枚つなげてＡ３にし、コンビニでコピーしていました。時間はかかるし、コピー機の不調でやり直したり、発行日の前日はいつも夜遅くまでコピーしていました。これではたまらないと思い、安くなってきたＡ３のレーザープリンターを購入し、全て家で完成できるようになりました。更にプリンターも進歩してＡ３カラーレーザープリンターを入れて、２５４号(２０００年１月)からカラー印刷に切り替えました。また行事の写真も掲載できるようになりました。パソコンの進歩で、編集作業が格段にやりやすく、スピードも速くなりました。

しかし、慣れるに従ってマンネリ化という大きな問題を抱えることになりました。色々工夫したつもりではありましたが、同じ人が長く続けると新鮮さがなくなってきます。もうやめなさいといけなさいと思っていたところで、小野さんそして今井さんが広報委員を代わって下さり、新風を送り込んで下さいました。本当に感謝しております。中和田教会の広報誌がますます充実、発展して行くことをお祈り致します。

これまでの広報活動を通して多くの方々と親しくなることができ、貴重な経験を積むことができました。この場をお借りして心から御礼申し上げます。



～ 中和田の風 ～

教会と音楽

小さいころからピアノを習わせてもらっていた私にとって「音楽」はなくてはならないものであったように思います。(現在は忙しくて、テレビやラジオから聞こえてくるもの、学校の授業や行事に関わっているものと、非常に限られてはいますが…) 中・高時代に音楽部で合唱をしてきました。大学生になったときに混声合唱をしてみようと思った時のことをお話ししたいと思います。



合唱団で歌う曲ってどんな曲だと思いますか。もちろん日本の曲、日本人の作った曲もありますが、圧倒的にヨーロッパの音楽、それも宗教曲、しかもミサ曲・レクイエムなどのキリスト教の音楽が多いのです。歌うのは日本の大学生たち。キリスト教を信じているわけでも、信者でもない人たちが、ラテン語のミサ曲を歌うのです。考えてみれば、西洋音楽の発達した背景には、教会の典礼が大きな影響を与えています。きっと神を賛美するために、すぐれた音楽が生まれてきたのだらう考えられます。

たとえば、多くの「クレド(信仰宣言)」は、「我神を信ず。」と言うことの重さを感じるような荘重な曲調になっていますが、グノーの「聖チェチーリアのための荘厳ミサ曲」の「クレド」は、笑ってしまうくらい底抜けに明るく♪クレード～と歌い始めます。初めて聞いたときに、こんなに明るく神を信じるって言える強さすごいなあと思った覚えがあります。グノーは、あの「グノーのアベマリア」をつくった作曲家ですが、神父になることを志した人だったそうです。神を信じることのすごさ、楽しさ、力強さを知っていた人だったのではないのでしょうか。

また、カトリックの作曲家ではありませんが、ブラームスの「ドイツ・レクイエム」もすごい曲です。多くのレクイエムは、教会の葬儀で歌われる典礼文を歌詞にしていますが、この「ドイツ・レクイエム」は、ブラームス自身が選んだ聖書の言葉からなっているドイツ語の曲です。「涙のうちに種まく人は」というところでは短調の悲しい曲調ですが、「喜びのうちに刈り取る」になると、まるで刈り取ったものを掲げて走り回っているような元気の曲調になります。曲と言葉がぴったり合っているので、歌うのが楽しい曲です。

第２バチカン公会議以来、自国語での典礼が認められてきましたが、せっかくこんな素晴らしい音楽がキリスト教(そのほとんどはカトリックです)のためにあるのに、現在、残念ながら教会ではラテン語を歌う機会はほとんどありません。モーツァルトも、ベートーベンも、ベルディも、優れた教会音楽を作っています。教会の中で歌われないのはなんともったいないことでしょう。カトリックの信者だからこそ、その音楽も深く味わえるのでは、とも思います。ぜひ、機会があったら味わって頂きたいと思います。

(保科 桂子)